

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

11月20日(火)

朝から保護者の方がたくさん学校においでになり、PTAまつりの後片付けをしてくださいました。トラッキーを干したり、シートを拭いて乾かしたりと、かなりの時間作業をしてくださいました。

また、月曜の休みに李さんがテントの片付けをしてくれました。また、大学生のボランティアには証明書を発行しました。学校の授業の単位になるらしいのです。さらに、踊りを踊ってくれた高校生にも日本語の感謝状を送りました。日本語というのが、また、嬉しいというようなことを言っていたと、卒業生が報告してくれていました。

11月21日(水)

小学部1・2年生は、凱旋小が来てくれました。近い学校ですので、歩いてきてくれました。開会式をやり、さっそく4階ホールに上がり、昔遊びをしました。けん玉、コマ、メンコ（新潟では、パッチ。岐阜ではパンコ。新潟でも渡辺先生は、メンコさえ知りませんか?）、魚釣り（池まで自作でした）、羽子板。言葉はなかなか通じなかったのですが、意思の疎通はあったようです。私は、相手校の校長先生と羽子板をやりました。4回続いたのが最高でした。バドミントンより難しい。さらに、相手校の校長先生は43歳という若さでそれだけでもついていけませんでした。私にゆっくり、やさしい単語を選んで話をしてくれたので、何とか少し会話ができました。「台湾にきて、何年ですか?」「学校で中国語は週に何時間やっていますか」などです。

小学部5・6年生は、福東小へ出かけました。同時並行なので、教頭先生についていってもらいました。英語や中国語で自己紹介、福東小の太鼓、こちらの太鼓、名刺交換、混合ドッジボール、視聴覚室で自校の紹介などだそうです。ドッジボールの傍らで腕相撲が始まり盛り上がっていたそうです。

11月22日(木)

久々にまったく行事がない日でした。そこで、1時間目は、小2をのぞいたら、辞書を引いていました。「アイスクリーム」を辞書によってどうちがうかをやっていました。また、五十音順で引けるように指導をしていました。（私は、実は「あかさたな・・・」と順番にいわないとわからないのです。）

隣の小3も行ってみました。中島先生が読んで、子どもたちは、会話の部分を読むことをしていました。すごい。なりきっていました。おじいさんの感じがよく出ていました。小6では、(アジア・)太平洋戦争をやっていました。12月6日に台湾人で零戦に乗っていた方が六年生のためにお話をしにきてくれます。「なんで15年戦争なんですか?」

「B29で原爆を落としたんですか?」「無条件降伏は、無条件で降伏したということですよ」と内容のある活発な質問をしていました。

11月23日(金)

3・4年生が七賢小学校を迎えました。9時に来てくれました。運動場で開会式をやり、そのあと、コーンバスケットと紙コマ作りです。コーンバスケットは、日台混合チームです。ドリブルのルールがよくわからないらしく、最初混乱していました。紙コマ作りは、事前に練習して、言葉が通じなくても、「このように折るのだ」とジェスチャーで説明していた人もいっぱいいました。汗だくになり教えていた人もいました。見学しているだけでも暑い日でした。

先週お配りした新潟日報の記事について私のところに新潟からずいぶん反応がありました。いくつか紹介します。台湾をほとんど知らない方々の反応です。でも、それが、この記事で、少しはむすばれたと思うと嬉しいものがあります。

①取材の背景が、とてもよく分かるとともに、記事の内容に至った経緯を知り、あの冷静で客観的な姿勢の内容となった理由が分かりました。

特定の見方・考え方や、功名心に走った記事を書くような記者が多い中で、大きく育ててほしいですね。

②なるほど。それで最後の締めがあの文だったんですね。

二日目の記事は勉強して書いたんだなあというのが伝わりました

③さて、11月14日付けの新潟日報を拝見しました。

まず、全校朝会のお話の姿が眼に入るとともに、<「尖閣」影響 警備厳重に>の大きな文字が飛び込んできました。

本文自体は、とても冷静に記載されており、<心強く感じた 無邪気な笑顔>の小見出しなどを含め、記者の誠実さを感じました。

④尖閣はテレビの中の問題だと思っていたら、違っていただけですね。

⑤台湾の厳しさが伝わってまいりました。親日的といわれる台湾でもという意味で、意外でした。

⑥昨今の領土問題は、少なからず台湾、高雄でも影響をしていたんですね。早く良い方向で解決して、子どもたち、教職員の皆様が安全に過ごせるようになってほしいと思います。これからの時代、危機管理能力をしっかりと身につけていくことが一層求められていくのだろうと実感いたしました。

また、記事の最後にあった児童の「日本人も台湾人もそんなに変わらないと思う」という言葉がとても印象的でした。日本人学校にいる児童も日本の学校に在籍している児童も、違う国籍、違う人種、など自分とは異なる人でも、尊重し、認め合い、ともに生活しているような人になってほしいです。

